



ヒロセ電機株式会社

2026年3月期 決算説明会

2026年5月12日

イベント概要

[企業名] ヒロセ電機株式会社

[企業 ID] 6806

[イベント言語] JPN

[イベント種類] 決算説明会

[イベント名] 2026 年 3 月期 決算説明会

[決算期] 2025 年度 通期

[日程] 2026 年 5 月 12 日

[時間] 10:45 – 12:03
(合計：78 分、登壇：39 分、質疑応答：39 分)

[開催場所] インターネット配信

[登壇者] 5 名

代表取締役社長 鎌形 伸 (以下、鎌形)

取締役 管理本部 本部長 松永 光生 (以下、松永)

ヒロセ SER 株式会社 代表取締役社長

新井 達也 (以下、新井)

広報・IR 室 室長 山田 理絵 (以下、山田)

広報・IR 室 清水 秀章 (以下、清水)

登壇

山田：それでは定刻となりましたので、ただいまより、ヒロセ電機 2026 年 3 月期決算説明会を開催いたします。本日はご参加いただき誠にありがとうございます。同じセクターの企業様の説明会と時間が重複したため、本日は通常より 15 分遅い開始とさせていただきます。

本日の出席者は、ヒロセグループ代表取締役社長、鎌形。取締役 管理本部長、松永。ヒロセ SER 代表取締役社長、新井。進行を広報・IR 室の山田および清水が務めます。本説明会はオンラインのみでの開催となります。よろしくお願いいたします。

まず冒頭、本会の説明をさせていただきます。本日の決算説明会資料ですが、ご参加の画面上のリンクから PDF ファイルをダウンロードいただき、お手元でご覧ください。同様に、昨日 5 月 11 日に東証にて開示しております決算短信もリンクがございます。その他の開示資料については弊社 Web サイトの IR ページに遷移していただき、ご覧いただけるようになっております。

ご説明の際にはページ番号を申し上げますので、ページ送りは各自でお願いいたします。質疑応答は電話回線を使用した双方向形式で行います。ご質問のある方は、後ほど設けてございます質疑応答の時間に、説明会案内メールに記載のご質問用電話接続情報にお電話ください。受け付け順にこちらからご案内いたしますので、順番にご発言くださいますようご協力をお願いいたします。

それでは資料に基づき、まず私より 2026 年 3 月期の決算概要をご説明いたします。その後、2027 年 3 月期の業績予想および中期経営計画について、社長の鎌形よりご説明いたします。残りの時間で質疑応答を行い、新井、松永も含めてご回答申し上げます。本説明会、11 時 45 分頃の終了を予定しております。

業績サマリー (2025年度 2025年4月～2026年3月)

期初より減益予想であったところ、売上、利益ともに前年対比増加にて着地した。金属材などの材料コスト増は引き続き負担となり利益を圧迫したものの、売上は全体的に堅調に推移。一般産機市場向けは、継続成長となり年間予想を上回り着地。スマートフォン市場、およびコンシューマ・モバイル向けは季節性の影響はありつつも落ち幅は小さく予想より若干上振れ。自動車・モビリティ関連向けは引き続き堅調に推移した。2025年度の売上は前年対比+11.5%、営業利益は+0.8%、営業利益率は20.4%。受注は累計で2,249.8億円と前年同期比 +16.8%となった。

(金額：億円)

	2024年度			2025年度			前年同期比
	上期 (24.4-9)	下期 (24.10-25.3)	累計 (24.4-25.3)	上期 (25.4-9)	下期 (25.10-26.3)	累計 (25.4-26.3)	2025累計 / 2024累計
受注	975.9	950.7	1,926.6	1,061.5	1,188.3	2,249.8	+16.8%
売上	945.2	949.0	1,894.2	1,020.2	1,092.4	2,112.6	+11.5%
営業利益	222.2	204.5	426.7	204.6	225.3	429.9	+0.8%
営業利益率	23.5%	21.4%	22.5%	20.1%	20.6%	20.4%	-2.1pt

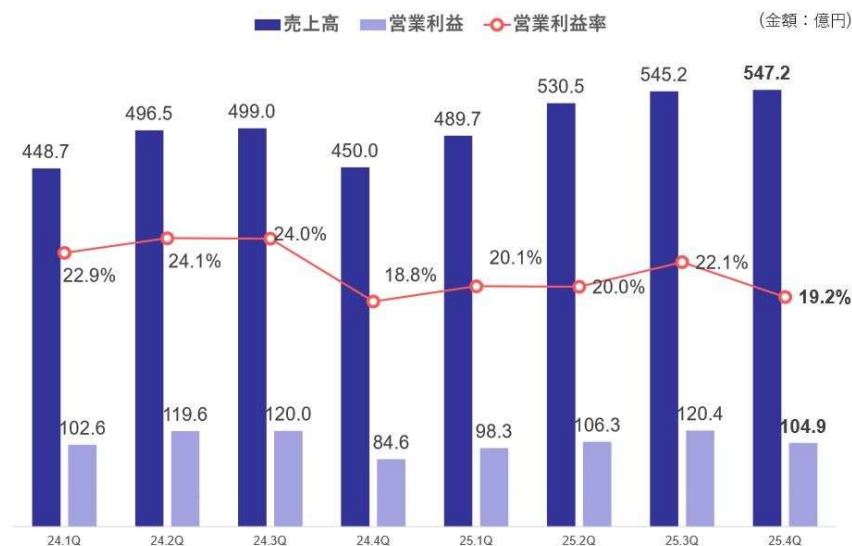
3

資料に移ります。それではまず3ページからお願いいたします。業績サマリーです。2026年3月期の通期業績につきましては、期初に減益を見込んでおりましたが、売上高・利益ともに前年を上回る結果となりました。

全体の売上高は累計で2,112.6億円と、前年同期比プラス11.5%と増収となりました。営業利益ですが、金属材などの材料コスト増は引き続き負担となりましたが、期初では減益予想としていたものの、わずかにプラス0.8%ではございますが増益となり、429.9億円という結果でございました。営業利益率は20.4%でした。

セグメント別では、一般産機向けが継続的な成長により年間予想を上回って着地いたしました。スマートフォンおよびコンシューマ・モバイル向けは、季節性の影響はあったものの下振れは限定的で、予想をやや上回りました。自動車・モビリティ関連向けは引き続き堅調に推移いたしました。受注高は累計で2,249.8億円、前年同期比16.8%増と好調でございます。

売上・営業利益推移 (2024年度1Q~2025年度4Q)



© 2026 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

4

続きまして4ページをご覧ください。四半期ごとの売上・利益の推移を示したグラフです。25年度第4四半期が売上547.2億円、営業利益104.9億円、営業利益率は19.2%でありました。

例年第4四半期はコンシューマ向けの需要の季節性により売上が落ち込む傾向にありますが、当期はその影響が限定的で、また産機市場向けも好調であったことから、第4四半期が売上のピークとなりました。

記載はしていませんが、差し引きいただくとお分かりのとおり、受注に関しても4Qで632億円という結果となっており、過去最高レベルの受注・売上となりました。現在、キャパシティ含めた生産体制の強化に取り組んでいる状態となっております。

2025年度 連結決算概要

	2024年度 (2025/3月期)	2025年度 (2026/3月期)	増減額 (対前年同期比)	増減比 (対前年同期比)	(金額: 億円)	
					2024年度累計	2025年度累計
売上高	1,894.2	2,112.6	+218.4	+11.5%		
売上原価率	54.9%	57.9%	+3.0pt			
販売・管理費比率	22.4%	21.6%	-0.8pt			
営業利益	426.7	429.9	+3.2	+0.8%		
営業利益率	22.5%	20.4%	-2.1pt			
税引前利益	462.2	466.3	+4.1	+0.9%		
税引前利益率	24.4%	22.1%	-2.3pt			
当期利益	330.3	331.4	+1.1	+0.3%		
当期利益率	17.4%	15.7%	-1.7pt			
ROE	9.0%	8.9%				
自己資本比率	88.8%	87.7%			1US\$	152.58円
					1€	163.75円
1株当たり 当期利益	976.33円	991.91円			100ウォン	10.97円
						150.77円
						174.79円
						10.59円

© 2026 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

5

そして5ページ、決算概要となります。2025年度の売上は先ほどお伝えしたとおり2,112.6億円、前年同期比プラス11.5%となりました。営業利益は429.9億円で、前年同期比プラス0.8%、営業利益率は20.4%、税前利益が466.3億円、当期利益が331.4億円となりました。

自己資本比率は87.7%、1株当たり当期利益は対991.91円。為替の実績はドル150.77円、ユーロ174.79円、100ウォンが10.59円でした。

2025年度累計 対前年同期主要増減

売上高

218.4 億円 増加 (1,894.2億円 → 2,112.6億円)

一般産機	: + 151億円
スマートフォン・携帯端末	: - 21億円
自動車・モビリティ関連	: + 51億円
通信インフラ機器	: + 13億円

売上原価率

3.0 pt 悪化 (54.9% → 57.9%)

変動費率	: 37.9% → 41.1%
減価償却費率	: 7.8% → 7.7%
労務費率	: 7.7% → 7.9%

販売・管理費比率

0.8 pt 良化 (22.4% → 21.6%)

424.7億円 → 457.1億円 (+32.4億円)

金融収益・費用

0.9 億円 増加 (+35.5億円 → +36.3億円)

為替差損益	: -7.2億円 → +2.3億円
有価証券評価損益	: -9.4億円

© 2024 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

6

続いて6ページ、対前年の主要増減をまとめております。売上高は前年から218.4億円の増加となりました。内訳としては一般産機向けの売上がプラス151億円、スマートフォン・携帯端末向けがマイナス21億円、自動車・モビリティ向けがプラス51億円、通信インフラ機器向けがプラス13億円という結果でございました。

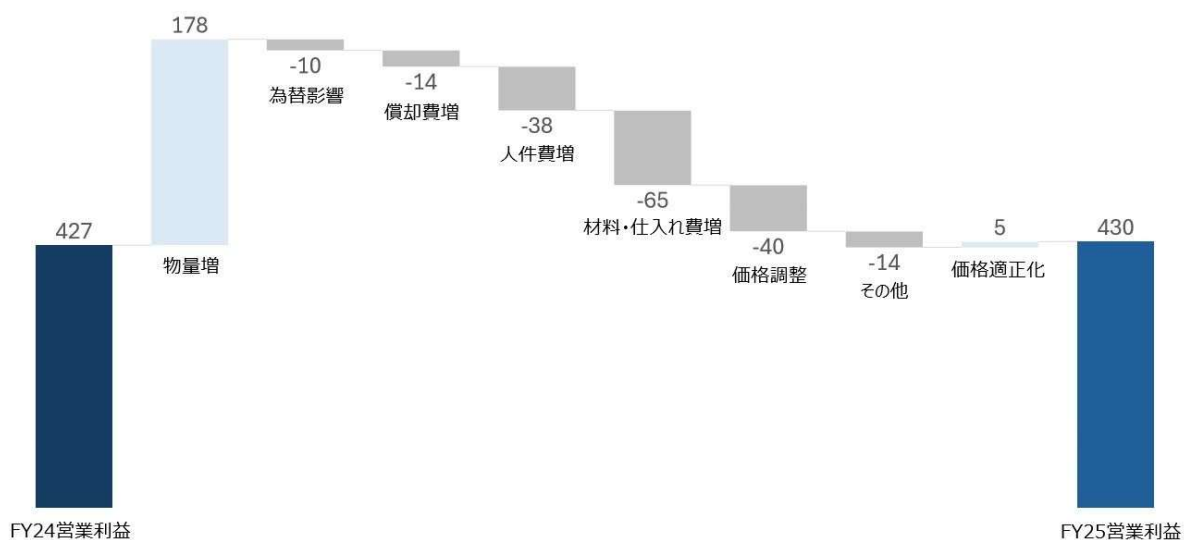
売上原価率は前年の54.9%から57.9%へと3ポイント悪化いたしました。主に材料費および仕入れ費用の増加により、変動費率が37.9%から41.1%へ上昇しております。減価償却費率は7.7%と前年からほぼ横ばい。労務費率は7.9%とやや上昇いたしました。

販管費は物流費の増加などにより32.4億円増加いたしました。売上増の効果もあり比率としては21.6%と0.8%の改善となりました。

金融収支は36.3億円と前年から0.9億円の増加となっております。

2025年度 営業利益 対前年同期 変動分析

(金額：億円)



© 2025 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

7

続いて7ページ、対前年対比、営業利益の変動分析になります。今回より変動要因をより分かりやすくお伝えするため、ウォーターフォールチャートで表示しております。

プラス要因として、まず物量増により178億円の利益押し上げがありました。一方マイナス要因としては、為替影響で10億円、減価償却費の増加で14億円、人件費の増加で38億円、材料・仕入れ費用の増加で65億円の影響がありました。

また、第2四半期決算時にもご説明したとおり、特定顧客における価格調整により40億円のマイナス影響が発生いたしました。一方で、材料コスト上昇に対応した価格適正化の活動により5億円の改善効果がありました。

連結貸借対照表（1）

					(金額：億円)
	科目	2025/3末	2026/3末	増減額	備考
資 産	現金及び 現金同等物	856.7	873.3	+16.6	当期利益+331、自己株式買付△203 設備投資(建物等含む)△200 配当支払△165 有価証券・定期預金満期償還 +263
	営業債権及び その他の債権	403.9	498.7	+94.8	売上増加
	棚卸資産	250.9	301.9	+51.0	受注増により原材料確保
	その他金融資産	1,513.7	1,444.0	-69.7	定期預金減等
	有形固定資産	863.8	903.6	+39.8	生産設備増
	使用権資産	49.4	59.1	+9.7	
	その他	230.2	231.1	+0.9	
	合計	4,168.7	4,311.8	+143.1	
現預金合計		1,604.5	1,370.9	-233.6	

© 2026 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

8

続きまして8ページがBS資産の部になります。現金のところは、自己株式の取得や設備投資等による減少も、有価証券の償還や定期預金のその他金融資産からの振替により、全体ではプラス16.6億円の増加となっております。今期の売上増加に伴い営業債権が増加しており、その結果、資産合計は4,311.8億円となりました。

なお、棚卸資産が第3四半期に対して増加しておりますが、これは受注増により各工場、子会社における仕掛在庫や原材料在庫を戦略的に増やしているためとなっております。

連結貸借対照表（2）

		科目	2025/3末	2026/3末	増減額	備考
負債		支払債務及び その他の債務	129.0	167.5	+38.5	仕入増による買掛金増 +32
		リース負債	52.0	62.3	+10.3	
		未払法人税	81.4	64.7	-16.7	
		その他	204.8	236.5	+31.7	繰延税金負債増
		合計	467.2	531.0	+63.8	
純資産		資本金及び 資本剰余金	206.3	208.7	+2.4	
		利益剰余金	3,489.7	3,649.3	+159.6	当期純利益+331、配当金支払 △165
		自己株式	-274.6	-477.7	-203.1	自己株式取得 △203
		その他	280.1	400.5	+120.4	為替換算調整(円安による) +102
		合計	3,701.5	3,780.8	+79.3	
		負債及び純資産合計	4,168.7	4,311.8	+143.1	

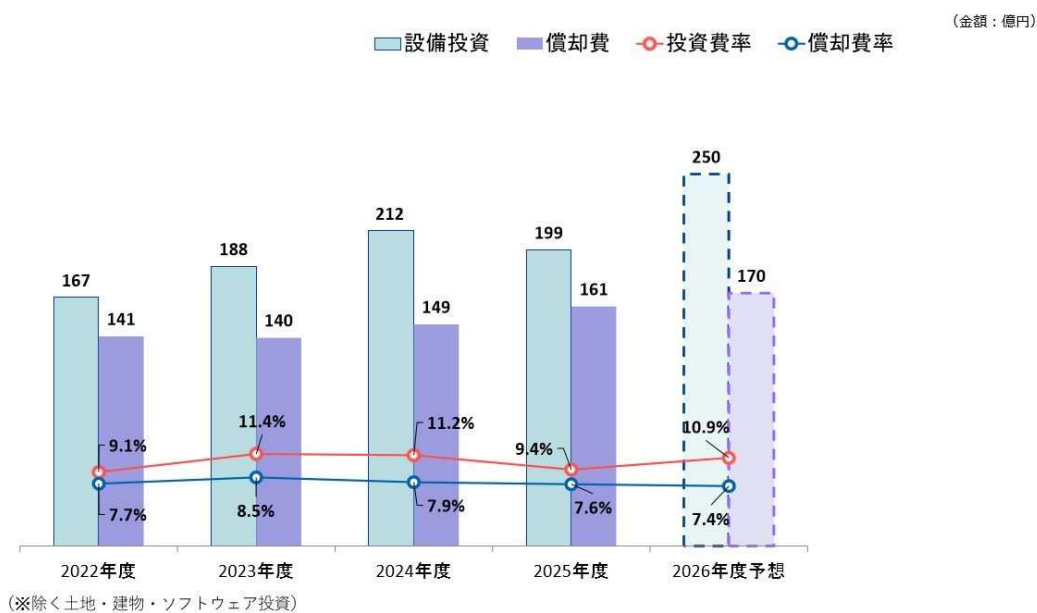
(金額：億円)

© 2026 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

9

続いて9ページは負債と純資産の部です。負債では支払債務が増加しておりますが、仕入増による買掛金の増加によるものです。純資産では自己株式が増加しております。こちらは8月に取得を開始し、11月に約150億円の取得を完了したものと、1月から開始し期末までに約53億円進んだものとなっております。

設備投資・償却費 推移(連結ベース)



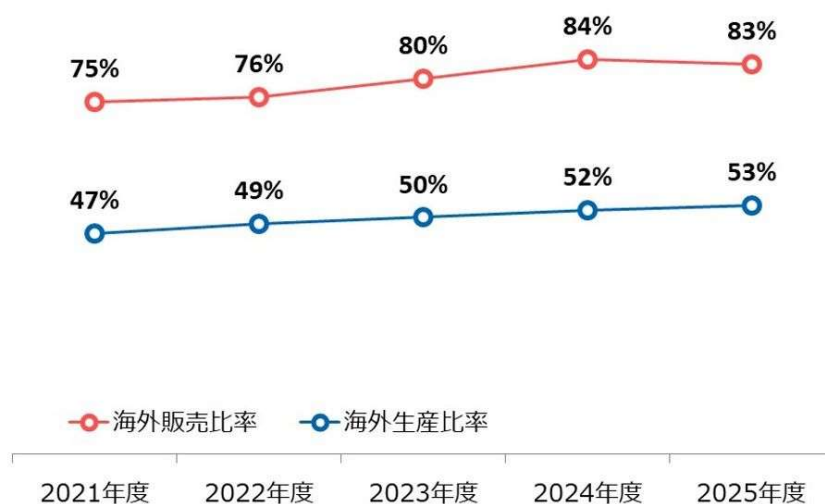
10

続きまして資料 10 ページをご覧ください。設備投資および減価償却費の推移です。2025 年度の設備投資額は 199 億円、償却は 161 億円でありました。

2027 年 3 月期につきましては足元の需要環境を踏まえ物量増加局面にあると捉えております。このため、設備投資額は 250 億円、減価償却費は 170 億円を見込んでおります。引き続き生産能力強化および効率化を意識した投資を行っていく方針でございます。

なお、資料には記載しておりませんが、25 年度の研究開発費は 135 億円という実績でした。2026 年度の研究開発費予想は 145 億円といたします。

海外生産比率・販売比率



© 2026 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

11

次に 11 ページ、期末ということで海外生産比率・販売比率の結果のスライドを入れております。当期の海外販売比率は 83%となりました。国内一般産機向けの売上が増加したことにより、相対的に国内売上比率が上昇し、海外販売比率は前期からやや低下しております。

海外生産比率は 53%となりました。海外での需要動向や生産効率を踏まえつつ、引き続き最適な生産体制の構築を進めてまいります。

従業員数 推移 (有報ベース)



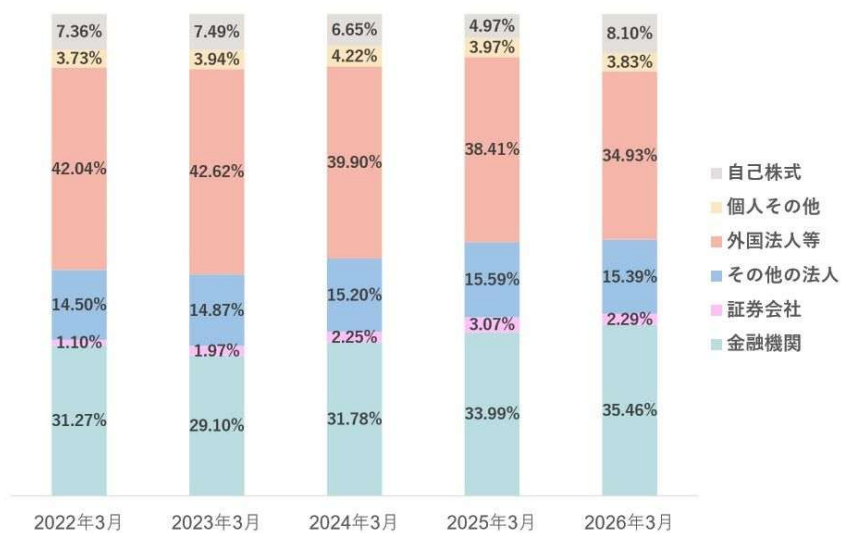
■ 26年度 国内の201名増加は主にヒロセSERの連結範囲拡大に伴うもの

© 2026 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

12

続きまして、12 ページは従業員数の推移です。国内で 201 名増加しておりますが、主にヒロセSERの子会社化によるものとなっております。海外の増加分は、主に生産増強のための製造ラインの人員補充によるものです。

株式分布推移



© 2026 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

13

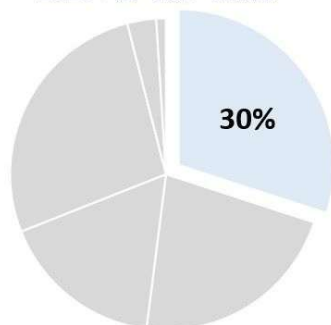
13 ページは株式分布推移のスライドです。自己株式が 4.97%から 8.10%に上昇しておりますが、これは自己株式の取得によるものです。

分野別売上 一般産機

(金額：億円)

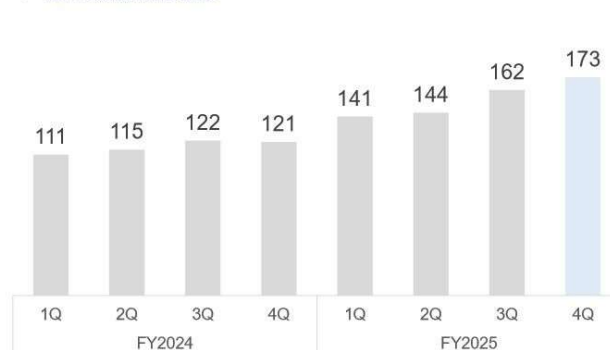
	2024年度				2025年度				前年同期比
	上期	3Q	4Q	累計	上期	3Q	4Q	累計	2025累計 /2024累計
売上高	226	122	121	469	285	162	173	620	+32%

● 2025年度 累計 構成比*



* コネクタ売上高のみ

● 四半期別売上推移



■ 全体的に好調さを維持し、昨年対比30%増予想のところ上振れて着地

© 2026 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

14

続きまして 14 ページ、ここから分野別の結果についてご説明いたします。

まず、一般産機向けの売上推移です。2026 年 3 月期第 4 四半期の売上高は 173 億円となりました。通期累計では 620 億円となり、前年同期比で 32%の大幅な増収となっております。第 3 四半期で調整局面を脱して再び成長フェーズに行っているとお伝えいたしましたが、そのトレンドは産機全体として継続いたしました。

2 月時点では前年対比 30%の成長は見込んでおりましたが、それを少し回るプラス 32%での着地となっております。

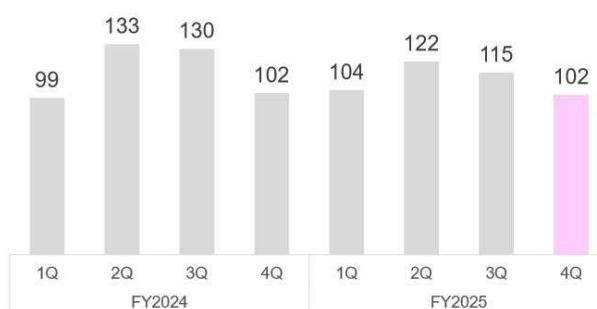
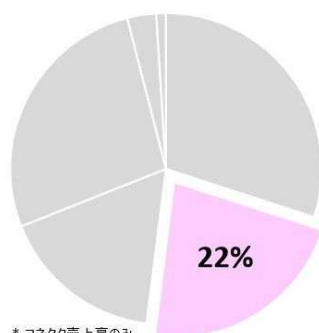
分野別売上 スマートフォン・携帯端末

(金額：億円)

	2024年度				2025年度				前年同期比
	上期	3Q	4Q	累計	上期	3Q	4Q	累計	2025累計/2024累計
売上高	232	130	102	464	226	115	102	443	-5%

● 2025年度 累計 構成比*

● 四半期別売上推移



* コネクタ売上高のみ

■ 季節性はあるものの4Qとしては落ち幅が小さく、通期で前年対比-7%予想のところ-5%に留まった。

© 2024 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

続いて15ページ、スマートフォン・携帯端末向けとなります。第4四半期の売上は102億円となりました。例年、第4四半期は季節性の影響により売上は減少する傾向にありますが、当期は落ち幅としては比較的小さかったと見ております。通期では443億円となり、前年同期比では5%の減収となりました。

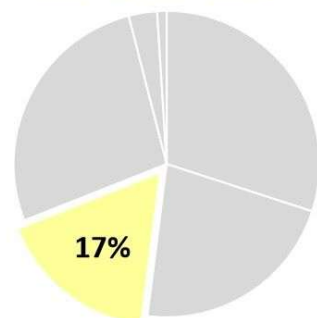
当初7%程度の減収を見込んでおりましたが、最終的には想定よりも下げ幅を抑えた形で着地しております。

分野別売上 コンシューマ・モバイル機器

(金額：億円)

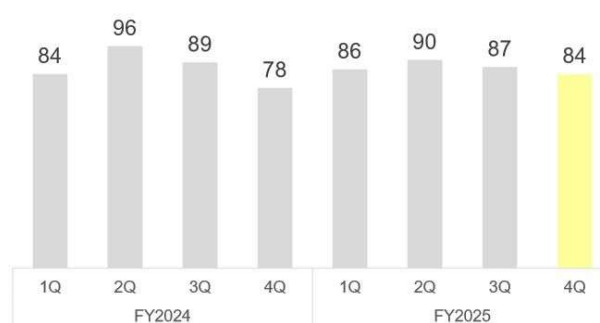
	2024年度				2025年度				前年同期比
	上期	3Q	4Q	累計	上期	3Q	4Q	累計	2025累計/2024累計
売上高	180	89	78	347	176	87	84	347	±0%

● 2025年度 累計 構成比*



* コネクタ売上高のみ

● 四半期別売上推移



■ 季節性はあるものの、コンシューマ製品などがカバーし底堅く推移。前年対比-2%予想のところ横ばいで着地

© 2024 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

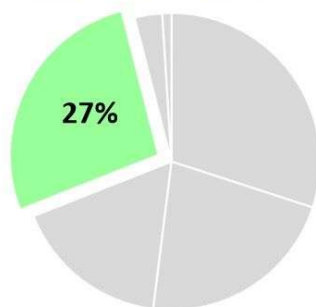
続きまして16ページ、コンシューマ・モバイル機器向けになります。第4四半期は84億円、25年度累計で347億円となりました。ウェアラブルデバイスなど一部製品には季節性があるものの、コンシューマ製品等がカバーし底堅く推移いたしました。対前年比マイナス2%としておりましたが、結果的にはプラスマイナス0で終わりました。

分野別売上 自動車・モビリティ関連

(金額：億円)

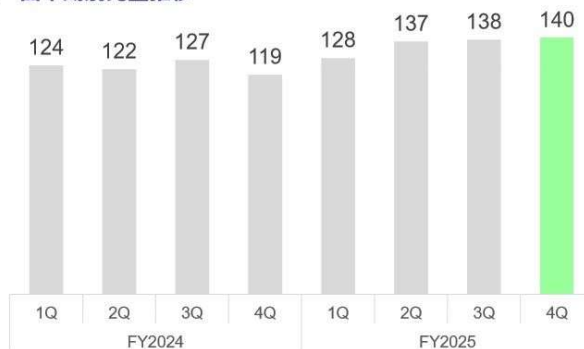
	2024年度				2025年度				前年同期比
	上期	3Q	4Q	累計	上期	3Q	4Q	累計	2025累計/2024累計
売上高	246	127	119	492	265	138	140	543	+10%

● 2025年度 累計 構成比*



* コネクタ売上高のみ

● 四半期別売上推移



■ 多様な顧客基盤と製品ラインナップを背景に引き続き堅調に推移。

© 2024 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

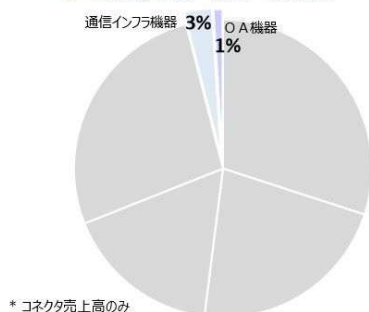
続いて17ページ、自動車・モビリティ関連向けです。第4四半期は140億円で、累計は543億円で、前年同期比でプラス10%の成長となりました。こちらは多様な顧客基盤と幅広い製品ラインナップにより、市場環境の変動を吸収しながら引き続き堅調に推移したものと認識しております。

分野別売上 通信インフラ機器 / OA機器

(金額：億円)

	2024年度				2025年度				前年同期比
	上期	3Q	4Q	累計	上期	3Q	4Q	累計	2025累計 / 2024累計
通信インフラ機器	27	13	14	54	28	17	22	67	+24%
OA機器 (事務機)	9	5	4	18	10	4	5	19	+6%

● 2025年度 累計 構成比*



* コネクタ売上高のみ

● 四半期別売上推移



■ AIサーバー関連の増加により通信インフラ機器向けが伸長

© 2024 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

18 ページは、通信インフラ機器向けと事務機器向けです。3Q のタイミングにて、通信インフラ機器セグメントの BB レシオは 1.4 倍と高水準であることをお伝えしましたが、その一部が売上として顕在化したしました。第 4 四半期の売上高は 22 億円、通期累計では 67 億円となり、前年同期比で 24% の増収となっております。以上が分野別の実績となります。

続きまして、26 年度の業績予想および 2026 年度版の中期成長戦略については、社長の鎌形よりご説明させていただきます。お願いいたします。

2026年度 業績予想 (連結)

	2025年度 (2026/3月期) 実績		2026年度 (2027/3月期) 予想		第2四半期累計 対前年実績		通期 対前年実績		(金額/億円)
	第2四半期 累計	通期	第2四半期 累計	通期	増減額	増減率	増減額	増減率	
売上高	1,020.2	2,112.6	1,150	2,300	+129.8	+12.7%	+187.4	+8.9%	
売上原価率	57.9%	57.9%	60.0%	60.0%					
営業利益	204.6	429.9	230.0	460.0	+25.4	+12.4%	+30.1	+7.0%	
(%)	20.1%	20.4%	20.0%	20.0%					
税前利益	221.0	466.3	240.0	480.0	+19.0	+8.6%	+13.7	+2.9%	
(%)	21.7%	22.1%	20.9%	20.9%					
当期利益	155.2	331.4	170.0	340.0	+14.8	+9.5%	+8.6	+2.6%	
(%)	15.2%	15.7%	14.8%	14.8%					
一株当たり 当期利益	—	991.91円	—	1039.08円	【為替レート】				
一株当たり配当	245円	505円	260円	520円	1US\$	150.77円	150.00円		
ROE		8.9%		9.0%	1€	174.79円	183.00円		
連結配当性向	—	50.9%	—	50.0%	100ウォン	10.59円	10.50円		

19

鎌形：社長の鎌形です。いつも皆様、大変お世話になっております。19ページから、私からの説明とさせていただきます。

中央のところにございます26年度の予想ですけれども、売上高は先ほど山田が言いましたように、25年度の追い風トレンドをしっかりと受けてさらなる成長という形で、売上高2,300億と置かせていただいております。これは対前年実績でプラス8.9%であります。

営業利益は460億を置いておまして、対前年プラス7%です。前提とする為替レートは、USドル150円、1ユーロ183円、100ウォン当たり10.5円で予想をしております。

ここは一部ナフサ関連問題として溶剤や物流用パッケージトレーの副資材、燃料サーチャージなどの物流コストを一部入れておりますけれども、少しコストは堅めに見ております。

既存コネクタビジネス領域：分野別 年間売上予想（概数）



20 ページで分野ごとのお話をさせていただきたいと思います。まず左のほうから、一般産機の領域は、26 年度売上予想としては 710 億円であります。ここは半導体設備関連の分野、およびフィジカル AI 絡みのロボティクスの領域および医療、ともに成長を描いております。

スマートフォン・携帯端末、コンシューマ・モバイル、これは二つともほぼ横ばいの絵にしておりますけれども、スマートフォン・携帯端末は前年度比マイナス 3%程度で 430 億円。コンシューマ・モバイルはマイナス 2%で 340 億円としております。

特にスマホのところは、ミドルレンジやローレンジのところのお客様のフォーキャストが少し弱含んでいる反面、各トップブランドのフラグシップモデルのフォーキャストは、しっかりと大きく出てきておりますので、私どもの得意とするフラグシップモデルでのシェアは、昨年に続き今年もしっかりとキープしていると考えておりますので、昨年の成長をほぼほぼキープできると考えております。

自動車・モビリティのところは今年度は 600 億円と見ておりまして、ここは ADAS および EV が今年も昨年に比べて少しシェアを上げてきている感じがございますので、継続 10%の成長を描いております。

通信インフラのところは、26年は90億円でプラス34%。ここはAIサーバー関連等に提供するコネクタで成長も視野に入れております。以上が既存コネクタビジネス領域であります。

NEWビジネス領域：プローブ応用製品・プローブ 年間売上予想（概数）



*ヒロセSER連結対象後の8-3月の売上高

【製品】

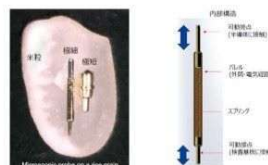
プローブ応用製品(ソケット、コネクタ含む)、プローブ、その他切削加工品

【事業環境】

半導体関連の顧客がメイン。旺盛な半導体需要を背景に、検査関連部品を手掛ける当社への需要も強い状況。

【ヒロセSERのソリューションと強み】

高い精度で世界最小クラスの極小プローブの量産が可能。当社の極小プローブにより、信号密度と高速伝送特性の向上が可能となり、顧客の課題解決に貢献。



好調な半導体市場への高付加価値提案を行い、さらなる事業拡大を目指す

© 2026 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

次のページ、21ページをご覧ください。ここが昨年来お話をしております新規ビジネス領域であります。プローブピン、右下に米粒がありますけれども、この上に乗っている世界最短および極細のプローブピンです。このマーケットにしっかりと訴求している手応えを感じておりまして、25年度売上は18億円でしたけれども、26年度は60億円で大幅成長をイメージしております。

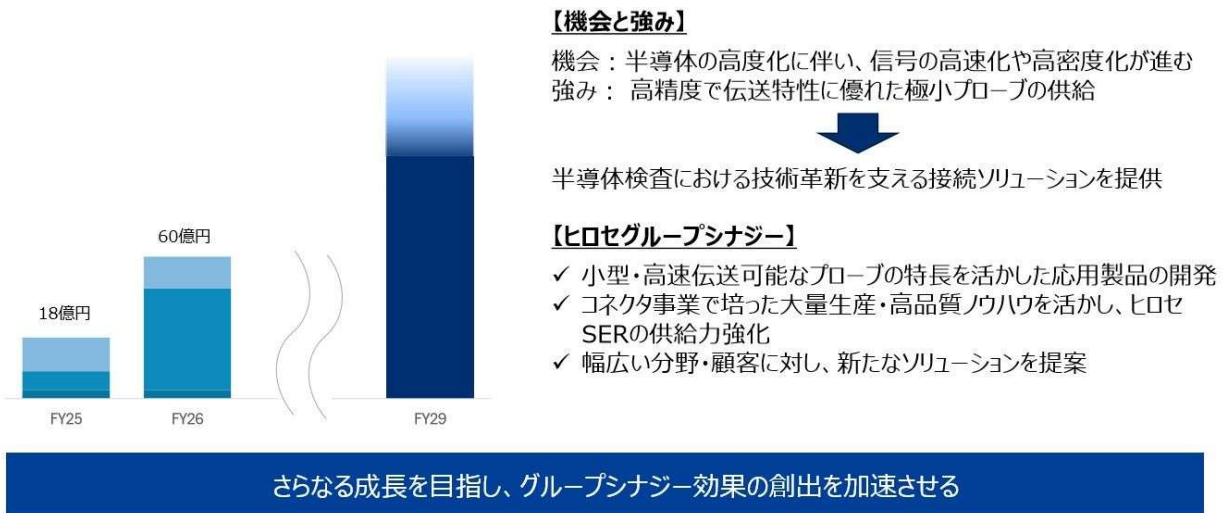
ただ、25年のところを注意書きしてございますけれども、連結対象後8月から3月の売上高ですので、単純に12カ月ではございませんので、そこはご注意ください。

この領域、半導体関連の顧客が当然メインですけれども、今いただいているフォーキャスト、需要はかなり大きく手応えを感じております。その半導体が、より高密度・高速化していくことによって、半導体の検査工程における検査ユニットも技術の変化がございまして、そこに当社のプローブおよびそのソケットが高密度なものを要求されておりますので、この極細、極短のニーズは、ほぼほぼ世界最小クラスでありますので、お客様からのニーズにしっかりと応えられると思っております。

これまでもこの会社のテクノロジーは高いものがありましたけれども、ここにヒロセグループの大量安定ものづくりのスキルを掛け合わせて、拡大するお客様のニーズに応えていける道筋を描くことにより事業拡大が果たせるのではないかと考えております。

ヒロセSERの最先端技術による付加価値拡大

新たな柱の一つとして、高い成長性の継続を目指す



© 2026 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

22

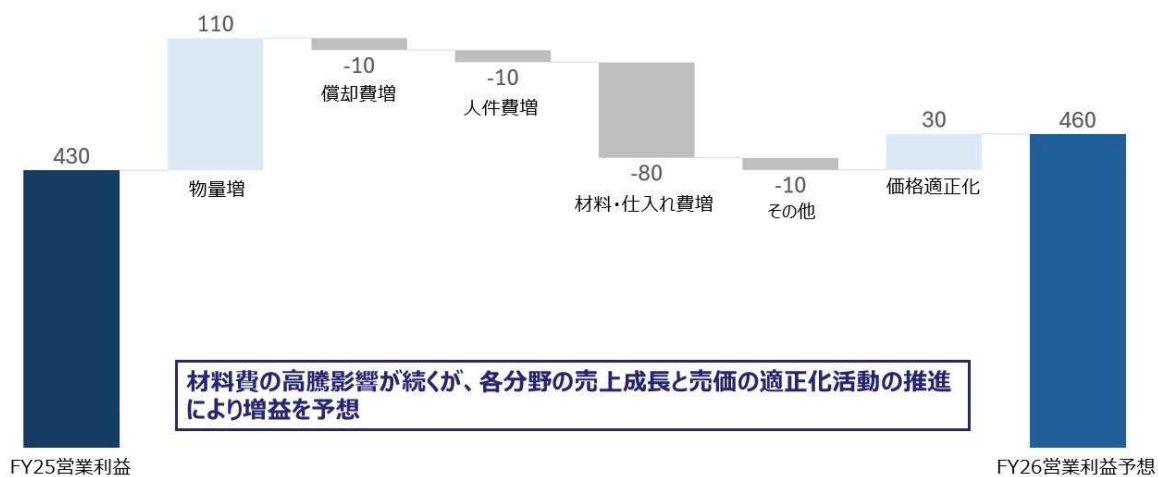
次のページをお願いします。ヒロセSERの26年度の売上は60億円の計画ですけれども、中期的にはさらなる成長を描いておりますが、本日は大変申し訳ございませんが、中期的にどのぐらいの大きさになるかは、まだお約束できない領域であります。

そういう意味では、26年度のこの数字をしっかりと実現できれば、その先は大きな成長に寄与するのではないかと考えています。29年度、今の段階ボリュームとして100億円は見えている感じはありますが、ここがさらに倍などを描こうとすると、この60億円をしっかりと実現できればその世界が見えてまいりますので、

この1年間、私どものチャレンジを評価いただき、来年の今の段階ではこの分野での中期計画を報告できると考えております。もうしばらくお待ちいただければと思います。

2026年度 対前年度比 営業利益 変動予想

(金額：億円)



© 2025 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

23

次の23ページお願いいたします。26年度の営業利益の変動予想を描いております。物量増に伴う利益のプラスは110億円。償却費増はマイナス10億、人件費増マイナス10億、材料・仕入れ増はマイナス80億、その他マイナス10億、価格適正化はプラス30億で、トータル営業利益460億円を描いております。

ここは少しコストは厳しめに見ていることをお伝えしておきます。この先中期のところでもお話をしてまいります。26年度は事業環境各分野とも追い風でありますので、しっかりと投資をするタイミングだと思っております。

24年、25年も新しい工場を建てるなど投資をしてまいりましたけども、この投資をしていく傾向は26年度以降も継続したいと思っておりますので、償却費増のところおよび人件費増などは計画どおりであります。

人材採用に向けての適正な人件費増分については、しっかりと払っていく前提であります。材料・仕入れ費増については、金の高騰と昨年の原材料高の部分はある程度継続すると考えておまして、その分を加味しております。

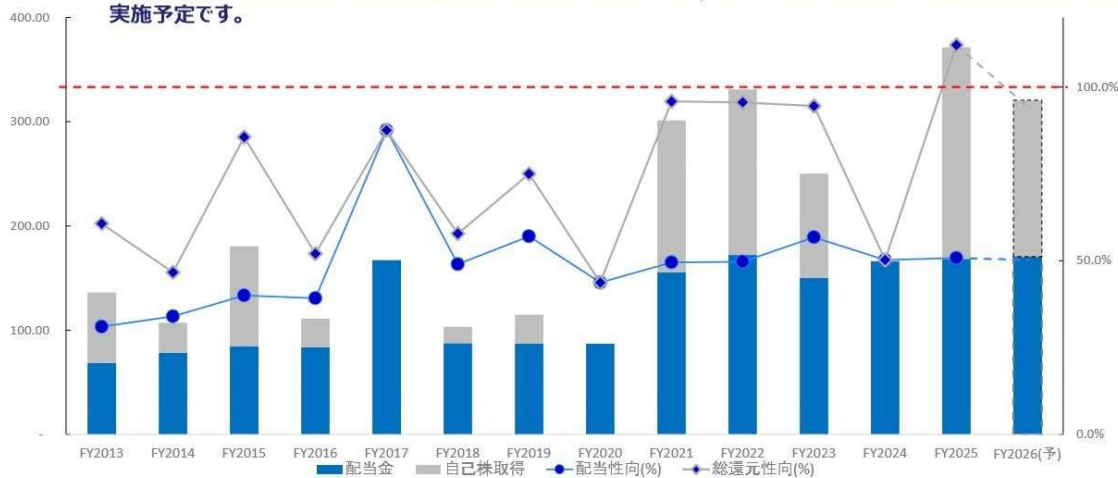
価格適正化、ここが昨年と少し違うところでありますけれども、昨年値上げ交渉をしてきたものが新年度からというお客様が結構いらっしゃいましたので、ここを 30 億円取り込んでいます。

価格の値上げ、適正化活動は、単年度にとどまらず、26 年、27 年度としっかりと外部環境を見ながら、コストの増分はお客様にしっかりと交渉していこうという話をしております。ただ、当然ライフサイクルの短い製品については新製品で洗い替えをしていくことと併せて、値戻していくことを考えております。

先ほど一部ナフサ等の話をさせていただきましたけれども、その値上げ分については、環境が正常に戻りましたら値を戻す前提で、各協力会社・材料メーカーからの依頼にはしっかりと応えてウィンウィンの関係をキープしています。

株主還元推移

(金額：億円) **2024年度よりDOE5%を株主還元指標とし、それに基づいた配当としております。**
 (配当性向：2025年度 50.9%，2026年度 50%見通し)
25年度は約200億の自己株取得を実施しており総還元性向は112%に達しました。
2025年度～2028年度で600億を上限とした取得を発表しており、残り約400億円については2028年度までに実施予定です。



© 2024 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

次の 24 ページをお願いいたします。株主還元施策については、私どもは 24 年度より DOE5%をお約束しておりますので、それに基づいた配当としております。25 年度の期末 1 株当たり配当 260 円予定ですが、26 年度は中間・期末各 260 円で年間 520 円を予定しております。

併せて、25年度から28年度までの600億円の自己株取得、これは計画どおり進めていきたいと思っております、既に200億円強を実施しておりますが、残り400億円弱についても28年度までに実施をしていこうと考えております。

ヒロセ技術展 CONNECTION2025 開催結果

3年に1回の技術展を開催。前回比21.5%増のご来場者数となった



前回は大きく上回る10,000名様を超えるご来場者をお迎えした。
当社技術者による仮説検証が行われ、お客様設計者のご意見を反映した未来の製品コンセプトを生み出す

25ページをお願いいたします。皆様ご存じかと思えますけれども、3年に一度の技術展が全て終了いたしました。トータルで1万人超えの設計者の方々のご来場をいただきました。今回の技術展は例年もそうですけれども、新製品および新しいコンセプトの展示でありますので、それに対して、この1万人からのフィードバック、ここをしっかりと次の新製品開発に活かして、ここを検証していき、次世代の新製品への反映を26年、27年度に進めてまいります。

既に夏の段階でいただいているアドバイス等は反映させている製品も発生してきております。どちらにせよ、この20%増のご来場いただいた設計者の方々のさまざまなニーズを、私どもの次の製品に活かしていく所存でございます。

役員人事（異動予定日：2026年6月25日）

取締役（監査等委員である取締役を除く）		
代表取締役社長		鎌形 伸（再任）
取締役	技術本部 本部長	小原 秀（再任）
取締役	営業本部 本部長	佐藤 博志（再任）
取締役	製作本部 本部長	郡司 吉広（再任）
取締役	管理本部 本部長	松永 光生（再任）
取締役	ヒロセコア株式会社 代表理事社長	李 相煒（再任）
社外取締役		元永 徹司（再任）
社外取締役		西松 正記（再任）
社外取締役		坂田 誠二（再任）
社外取締役		各務 洋子（再任）
監査等委員である取締役		
取締役（常勤監査等委員）		森 敬
社外取締役（監査等委員）		三浦 健太郎
社外取締役（監査等委員）		高嶋 健司
社外取締役（監査等委員）		石田 晴美
※ 取締役会長 石井 和徳は退任		【社外取締役比率 50%】

© 2026 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

26

26 ページをお願いいたします。役員人事はご覧のとおりであります。一番下段に書いてございますが、会長の石井が6月25日の株主総会をもって退任、卒業という形ですので、ご報告しておきます。

▶▶▶ 新たな成長領域を生み出し中長期的な成長の加速を目指す ▶▶▶



▶▶▶ 変わらぬ分野戦略に加え、需要拡大局面を捉え持続的な成長を継続 ▶▶▶

© 2026 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

2

もう一つ中期の戦略のところのお話をさせていただきたいと思います。資料「2026 中期成長戦略」2 ページをお願いします。

先ほど 2026 年度売上は 2,300 億円をお話しさせていただきましたが、2029 年年度は 2,900 億円と置かせていただいております。ここは既存の分野戦略に加えて、新製品というものを加味した上での各分野での需要拡大にしっかりと応えていく前提での成長路線を描こうと考えております。詳細は次のページで説明させていただきたいと思います。

トップラインの成長に向けて先への投資を強化

2029年度 数値目標	売上高	営業利益率	ROE
	2,900億円	23%以上	12%以上



*コネクタおよびその他含む、全売上高の構成比

- 中期的に質を伴った成長を加速させ、資本効率上昇を目指す
- 3本柱のさらなる成長
 - ✓ コンシューマ：業界をリードする強い商品と顧客基盤をさらに拡大
 - ✓ 自動車：供給体制の拡充、製品、顧客の拡大により成長のけん引役を継続
 - ✓ 産業機器：成長機会の拡大領域。製品・販路を拡大しGlobal市場で成長
- +“New”
 - ✓ ヒロセSER、AI関連、光アクティブコネクタなど、新領域の積極拡大
- 製品開発力、生産技術力、グローバル生産能力の向上のための積極投資
 - ✓ マイクロ製品、産機、自動車、生産技術 各々のケイパビリティ強化
- 継続的な品質向上、DXや人材などの非財務資本へも投資を行い企業体質を強化

© 2024 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

3 ページ。29 年度数値目標、売上高 2,900 億に併せて、営業利益率は 23%以上、ROE は 12%以上と掲げてまいります。これは昨年同時期にお話ししていた 2028 年度の中期目標に比べると、売上高はプラス 500 億、営業利益率はマイナス 2 ポイント、ROE はプラス 2 ポイントという形であります。

冒頭でも申しましたように、各分野、極めてヒロセビジネスとしては追い風でありますので、しっかりとトップラインを上げていく、健全な成長を踏まえて、インフレ基調のなか、この売上高を狙っていくことを考えております。

3 本柱のさらなる成長の部分については左の円グラフを見ていただければと思います。自動車の比率 25 年度の 26%を 31%まで上げていこうと考えております。

産機は 29%、ここのパーセンテージはキープですが、全体のボリュームが大きくなりますので、そこをしっかりと押さえていくということでもあります。

オールコンシューマは自動車が伸びた分少し比率が減りますけれども、民生、自動車、産機、およそ 3 割ずつというバランスをしっかりとキープしたポートフォリオを狙っていきたいと思っております。

併せて新しい領域です。先ほどお話ししましたプローブのヒロセ SER のビジネスおよび AI サーバー向けへのビジネス、および光アクティブ光電変換コネクタなど、これら新領域を積極展開ということで円グラフでは新しく SER 他と書いておりますけれども、この領域を大きく 5%として捉えております。

併せて DX、人財のところにもしっかりと投資していく。人財のところも、しっかりとした訴求ができる年収を新卒および既存の従業員にしっかりとリターンしていきたいと思っておりますし、AI 活用によってもものづくりの生産性を高めたり、私どものホワイトカラーの中での生産性アップも併せて今取り組んでおります。



未来への投資 2023年度以降についてのまとめ

ヒロセコアを強化	新郡山工場の建設・移転	東北アドバンス・テクノロジーセンター新設	次世代SCM構築
 <p>【マイクロコネクタ】の開発・生産を強化 増延床面積：19,881㎡ /5階 (現延床面積：35,389㎡ /5階) (総延床面積：55,270㎡) ・25年1月：稼働</p>	 <p>自動車・産機向け製品の製造技術、生産能力向上、BCP強化。 【車載】【産機】中心とし、先端「モノづくり」の新工場を建設（現在地から移転） <土地面積：47,720㎡/延床面積：27,757㎡> ・24年6月：稼働</p>	 <p>生産設備のソフトウェア技術力、設備立ち上げを高速で実現するハブ機能、協力会社と協創するモノづくり。 若手県盛岡市に、生産設備開発拠点の「東北アドバンス・テクノロジーセンター（TATセンター）」を設立 <土地面積：6,982㎡/延床面積：2,040㎡> ・24年3月：稼働</p>	 <p>Next Gen. SCM Systems 基幹システムの刷新 ・27年4月：移行完了予定 ・26年12月～：郡山工場移行予定 ・24年10月～：EU会計移行</p>
<p>増築 約30億円弱</p>	<p>土地取得+建築 約100億円強</p>	<p>初期投資額 約15億円</p>	<p>開発、導入費用 約80～90億円</p>
<p>マイクロ製品</p>	<p>車載関連製品</p>	<p>生産技術</p>	<p>DX推進</p>

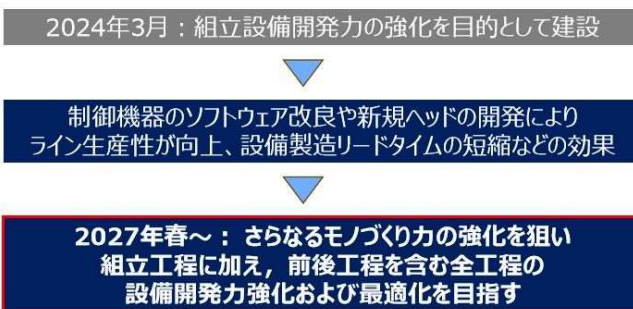
© 2025 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

4

次の4ページをお願いいたします。ここはご参考として何度か出しておりますが、過去に2023、24、25年度と工場のキャパを上げたり、生産設備のスキル・ノウハウを高めたり、あとはデジタル化への投資をしてまいりましたけれども、同様に26年度以降もトップラインを上げていくために必要な経営リソースは、しっかりと手当てをしていきたいと思っております。

「東北アドバンスト・テクノロジーセンター」機能拡張に向け増築を計画

ヒロセ電機株式会社は岩手県盛岡市向中野にて、生産設備の開発拠点として2024年3月より稼働している「東北アドバンスト・テクノロジーセンター」について、機能拡張を目的とした増築工事に着手いたします。
増築部分の竣工は2027年春を予定しております。



▶▶▶ 生産性改善の取り組みが成果を上げているため、さらなる拡大と発展に向けて追加投資を実施。 ▶▶▶

© 2024 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

5

現段階、見えている事案を二つお伝えしたいと思います。5 ページ目を開いてください。これは盛岡にございます 24 年 3 月にスタートしている東北アドバンスト・テクノロジーセンターであります。

私どもはこれまでどちらかというところからくりなどのメカ系で生産性を上げてきましたが、そこにソフトウェアの制御・機能を盛り込んで、ハードとソフト両面から生産性を上げていく取り組みをしております。ここの生産性が上がることがしっかりと見えてまいりましたので、ここのさらなる増強をしていきます。

それと同時に、前工程である金型及びめっき加工の工程も、このテクノロジーセンターで、最先端金型・最先端加工工程をよりブラッシュアップしていくことを目指して、27 年春に向けて増床および取り組み強化をしてまいります。

また、ここはエンジニアの教育の場という形での活用も考えておりまして、本社 R&D 部隊からの人の行き来や各工場からの研修、および海外工場からの長期の研修等もここでしっかりと教育をし、エンジニアの全体の底上げも併せて見てまいります。

インドのタミル・ナドゥ州チェンナイ市に新たな製造拠点を設立。車載分野を中心として2027年の稼働を目指す。



狙い

- ✓ 成長するインドの二輪・四輪市場を代表とする現地での事業拡大
- ✓ 顧客企業からの“Make in India”のニーズ対応
- ✓ サプライチェーンの複線化によるグローバル生産ネットワークの強化

車載分野の更なる成長対応と供給体制の高度化を同時に実現する戦略的投資

2026年3月 プレスリリース：<https://www.hirose.com/corporate/ja/additional/pressreleases/202603-india-manufacturing-site/>
© 2026 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

6

6 ページをお願いします。もう一つ、これは3月にプレスリリースしておりますが、インドへの製造拠点の設立であります。私どもの販売拠点は10年以上前からインドに進出してはおりますが、今回の生産拠点の進出は初であります。これは車載分野からをイメージしての進出ではありますが、当然将来的には民生と新しい領域も視野に入れての計画であります。

やはり顧客企業からのメイク・イン・インディア対応、地産地消対応ということで、2028年以降は場合によっては、取引条件に現地生産というのが入ってくる可能性も高まってまいりましたので、27年度中に稼働を目指し、28年度以降しっかりとお客様に納品していくことをトライしていこうと考えております。まずはインドの二輪・四輪市場、ここからチャレンジしていくことを考えております。ここは100%ヒロセの独資であります。

2026年度－2029年度 中期キャッシュアロケーション

成長投資と株主還元の充実を共に図る

中期キャッシュアロケーションをアップデート。積極的な成長投資と株主還元
の充実の両立を目指し、資本効率の向上を図る。

2024-2027年度累計イメージ



2024年5月開示 (2023年度決算説明会資料)

2026-2029年度累計イメージ



2026年5月アップデート

© 2026 HIROSE ELECTRIC CO., LTD. All rights reserved.

アップデート内容

- 創出するキャッシュの50-60%を中期成長のために投資
- 創出するキャッシュの40-50%を株主還元 (DOE5%、進行中の自社株買いプログラムなど)
- さらなる成長のためのM&A・資本提携などの戦略投資は、現在有しているキャッシュ等から充当

※本方針については下記の場合には見直しを行う場合があります。
(1) 予期せぬ急激な環境変化(紛争、自然災害、感染症等)
(2) 巨額のM&Aの資金投入が必要となった場合

7

次の7ページをお願いいたします。資本施策の見直しを少しさせていただいております。左グラフが24年から27年年度の営業キャッシュフローの累計イメージ、ここを、中央グラフ、26年から29年度の累計イメージに少しアップデートをしております。

ー M&A や資本提携などの戦略投資は、現在保有しているキャッシュからの充当を前提として、営業キャッシュフローについては、まずは冒頭申しましたように足元追い風でありますので、生産キャパ、エンジニアリング強化と事業投資にしっかりと投資をしていきたいと考えております。

営業CFの50%から60%を事業投資に充当していくことによって、将来の売上2,900億、およそ3,000億円の生産キャパについての準備を始めたいと思っております。ここは既存のコネクタのキャパアップに加えて、SERや光電変換のアイオーコア光アクティブへの対応等も含めてのものとございます。

それ以外のところは株主還元ということで、DOE5%、および公表済みの自社株買いをしっかりと実施していくことを考えてございますので、この場をお借りしてご報告をさせていただきます。私からは以上であります。

免責事項

本資料には、ヒロセ電機の現時点における予測に基づく記述が含まれています。これら将来に関する記述は、既知または未知のリスク及び不確実性その他の要因が内在しており、当社における実際の業績と異なる恐れがあります。ご承知おき下さい